

地 域 連 携
— 2013年度 —

1. 農学部公開シンポジウム

平成20年度より内閣官房と連携して開講している「地域活性化システム論－農学と地域活性化－」の第1回を兼ねて、11月9日（土）に自然科学研究科棟2F大講義室において第12回農学部公開シンポジウムを開催した。

中国四国における農産物のマーケティング戦略に焦点を当て、県行政の立場から、岡山・高知・鳥取各県の具体的取り組みや将来展望をご紹介いただいた。そして、それらの戦略を遂行するために求められる農学的研究成果や発想に関して、報告者と受講生の双方向的なディスカッションを行い、今後関係者が具体的に取り組むべき課題について検討することができた。

テーマ：中国四国の農産物マーケティング戦略を考える

ファシリテーター：小松 泰信 教授（環境生態学コース）

コメンテーター：田中 宏樹 氏（中国四国農政局 経営・事業支援部）

(1) 岡山県の現状と課題

岩田 則和 氏（岡山県農林水産部農政企画課対外戦略推進室）

(2) 高知県の現状と課題

岡林 俊宏 氏（高知県農業振興部産地・流通支援課）

(3) 鳥取県の現状と課題

三木 教立 氏（鳥取県商工労働部兼農林水産部市場開拓局）

2. 公開講座

『育てて食べようおいしい夏野菜－家庭菜園のツボ2013－』

フィールド科学センター内の畑約20㎡を1区画として受講生に割り当て、ナス、トマト、ピーマンのほかエダマメ、インゲンマメなどの夏野菜の育て方を指導した。原則として毎週水曜日の午後に講義または大学院・学部学生による畑での栽培指導を行った。平日の日中のみ入構可能として講義日以外にも収穫や除草などの管理作業を行うよう指導した。いずれの参加者も熱心で、暑い中で熱心に作物の栽培管理に取り組み、自己流で行ってきた家庭菜園よりできがよいと好評であった。

受講対象者：家庭菜園に興味のある一般市民 34名

担当教員：吉田

技術職員：山奥・宮地

実施場所：岡山農場 南3号圃場

実施日 4月10日～9月11日（毎週水曜日）

4月10日（14時開講）	野菜栽培の基礎、葉菜類・マメ類の播種・定植
4月17日（14時開講）	果菜類の着果習性、スイートコーン定植
4月24日（14時開講）	肥料の種類と与え方、マメ類の定植
5月1日	トマト・ピーマンの定植

5月8日	ナスの定植
5月15日～8月28日	果菜類の整枝・誘引・栽培管理・収穫
9月4日（14時開講）	秋野菜の作り方
9月11日	あと片付け

3. ジュニア公開講座

『秋が旬の果物に関わる秘密を探ろう』

秋が旬の果物、ブドウ、カキおよびセイヨウナシについて、どのように生産、収穫されているか知るとともに、おいしさと関係する、果実の色づきや渋抜き方法、果肉が軟らかくなる理由について、簡単な実習や実験を通して理解する講座をおこなった。最後に、興味をもったことについて発表を行い、修了証を授与した。全ての回に参加できることを条件としたため、受講者は少なかったが、受講した子供たちとその保護者は、ブドウの色づきと甘さの関係や、セイヨウナシを軟らかくする方法、カキの渋味の抜き方など、そのメカニズムと方法が知れて、好評であった。

受講生：小学生8名とその保護者

担当教員：福田

実施場所：岡山農場 果樹園

実施日：9月28日～11月9日（4回）

- 第1回 9月28日（土） ブドウ 色づきと味わい
- 第2回 10月5日（土） セイヨウナシ・キウイフルーツ 収穫直後は食べられない？
- 第3回 10月26日（土） カキ 渋みってどんな味？
- 第4回 11月9日（土） 干し柿づくり・体験発表会

4. FSセンター講演・講習会

本年度は、センター内外の受講者の安全衛生意識の向上を目標として、2テーマ（熱中症対策、草刈り機の使用方法）に関する講習会を開催した。いずれも事故につながるもので、理解しているつもりになっていくことが多く、体調管理における注意事項の徹底や安全な使い方について、しっかり学ぶことができた。

1. 熱中症の予防対策講習会

日時：平成25年6月19日（水）

場所：フィールド科学センター実習室

講師：保健管理センター内科医 古賀光氏

2. 草刈り機の取り扱い講習会

日時：平成26年3月14日（金）

場所：フィールド科学センター実習棟

講師：(株)ニッカリ西日本営業所 所長 一氏 章吾氏